

金沢こころの電話

ほっとライン

No.109

金沢こころの電話
ご相談は… ☎ 222-7556

☎ シルバーこころの電話
260-7272

それぞれがやれる事を!

2019年度 金沢こころの電話 定時総会



会員を増やしたいと語る中村会長

り組みが必要な中、皆様の励ましと温かい言葉を持って耳を傾けていただきたい」との期待の言葉があった。

総会は定款に基づき、会長を

議長として進められ、平成30年度事業報告と収支決算報告が全員の挙手にて承認された。
次年度に向けての報告の中、50周年記念事業と45周年記念事業の予算についての質問が出たが、事務局長より、それぞれの取り組みについての説明があり了解を得た。
また、今後に向けての中・長

期計画についての質問では、会長から①会員増による負担減で楽しい活動を②ネットワークの利用と外向け発信を③資金増に向けての3点を基に進めていきたいとの思いが語られた。
報告後には「自殺防止対応」に関する会員ケアについての質問及び意見交換もされ、有意義な総会となった。(記 F・M)

第43期 認定式

平成31年3月21日(祝)

◆◆誓いのことば◆◆

◆◆ 誓いのことば ◆◆
本日は、私たち13名の43期生はこのころの電話の相談員として認定式を迎えることができましたことを深く感謝しております。

過去に、様々な人間関係に悩み心理学を学んだことがきっかけで、いずれは相談業務の仕事に携わりたいと思っていた私がこのボランティアを知ったのは、テレビのニュースでこのころの電話相談員募集のお知らせを見たからでした。

講座は充実した内容で、講師や世話人の方のお話や経験談は私にとって貴重な学びとなりました。

いざ実践となると全くうまくできず、終わった後は呆然としていた自分がいました。特に難しさを痛感したのは長時間電話を続けてしまうことが何回かあったことです。それは「相手は傷つくのではないか?」という思いが、電話を終わらすことのできない原因だと考えました。その原因に気づいた時、講座で学んだ「同情」というワードが頭の中に浮かびました。「同情ではなく共感を」というフレーズを聞いたとき私はひそかに心の中で反論していました。「同情は自分が経験してきた気持ちだから相手のことをもつとわかってあげられる」と。しかし今回の件で自分

が過去に同情で返した時の出来事を思い返してみると、最後は私も相手も嫌な気持ちで終わっていたことに気がつきました。
「このころの電話の養成講座」を通して自分の嫌な部分や弱い部分にも気づくことができ、実生活でも活かすことができました。たった一本の電話から知らない相手と心と心の大切なやりとりをしているのだと思いました。

半年間という短い期間でしたが人生の中で一番深く自分の内面をみつめることができました貴重な時間だったと思います。これからも、初心を忘れず謙虚に長くこのころの電話を続けていきたいと思えます。

43期生代表 (記 Y・R)

【定時総会記念講演】

いじめ・不登校を中心とした
児童期から青年期に至るまでの課題と対応

- 日時/4月27日(土)13時30分~15時
- 会場/石川県社会福祉会館 大ホール ●参加者/68名
- 講師/金沢大学 人間社会研究域 学校教育系
公認心理師 臨床心理士 原田 克巳氏



学校現場を語る原田氏

1 はじめに

金沢に着任して15年になる。日頃、金沢大学付属幼・小・中高・養護学校をはじめ、県下各学校現場にて、主にいじめ対策委員や不登校対策に関わり、子どもの様子に触れる中での思いを話したい。

2 児童期から青年期と
学校現場

学校は(親や教師からの要求に応える場・子どもたちの互いの欲求がぶつかり合う場・他者との差を見せつけられる場・行くことが当然のように期待される場・一律が求められる場)として、つまりスキの多い場である。無力な自分を知らせられ自己否定感を強めたり、学校は日々、残酷にその子その子にみせつけられる場もある。特に、第2次成長期は自意識が高まりつつ、自立課題や将来展望が描きにくい時でもある。

3 失われた世代と
価値観の多様化

今の40代は就職氷河期に陥り、引く手あまたの楽観的な50代とは違い、失われた世代とい

われ、ニート・フリーター・ひきこもりが発生し、若者は「がんばれば、報われる」時代から価値観の多様化へ移行した。

4 スクールカーストと
家庭のありよう

子どもはクラスメンバーの特性を見て、自分達で序列を作り、その階層の中での安定を図ることに気を遣う。つまり、自分が仲間に入れられるポジションを掴んだら手離さない。それがお互い了解されておらず、見えにくく、いじめにつながっている。又、自分の人生の基盤となる家庭では乳幼児期の愛着関係や虐待経験は、人格形成に影響を及ぼし、経済状況や家族の不和も将来展望を左右する。

5 支援のイメージ

不登校は適応を模索中とも、適応のひとつの形とも捉えられている。霧に包まれた不安を抱え、「自分で動いてみようかな」という動点のため、傾聴し共感する。その子の気持ちに深く関わっていき、モヤモヤ感を言語化することで「かわし合える関係」を見い出す。学校で枯渇す

るよりも、社会的に自立することを大切にすする支援が求められる。

6 「児童の尊厳」保持を謳った
文部科学省の認識

いじめによる自殺の報道など、学校現場の実態は子どもの尊厳が保護されるべく対応が問われている。いじめ防止対策推進法(平成25年6月28日公布・9月28日施行)で、文部科学省

は「児童等の尊厳を保持するため、いじめ防止等(いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう)の対策に関し基本理念を定め」と謳っている。そして、学校による「いじめ防止基本方針」の策定を義務づけ、心身の痛みなど子どもの尊厳が守れないとき、大人は毅然と子どもを守らなければならぬと定めている。

(記 K・H)

第43期認定式・全体集会・懇親会開催

平成31年3月21日(祝)金沢市教育プラザ富樫にて、「43期電話相談員養成講座」を受講し認定され

た13名の認定式が行われた。会長や相談役の饒の言葉と会員が見守る中、一人ひとりに認定証が手渡された。その後、Yさんより入会にあたって誓いの言葉が述べられた。(1頁に記載)

全体集会では「困難な事例を考える」をテーマに7グループに分かれ話し合いの場が持たれた。当法人の研修のために作られた、誇りともいえる『心の風を感じるために』『頻回通話者の問題と対応』という冊子を参考にしながら皆で話し合いを進め、各グループでどんなことが話し合われたかを発表

誓いも新たに



公開講演会 2019

ひとりぼっちをなくす社会を目指して!

子どもの虐待・非行など

子どもの視点から生きづらさを問う

- ◆日時 5月26日(日) 14時~16時
- ◆会場 松ヶ枝福祉館 集会室
- ◆講師 多田 元氏(弁護士)
- ◆参加者 70人



多田先生

権が見えやすい。学校や行政でも子どもの視点を見落としている。例えば14歳の非行の少年に出会った時、警察は「なぜやった」と聞く。私は「身体大丈夫?」とまず言う。かわりの中で虐待の事実が分かったが、児童相談所も何も聞けないまま家庭に戻している。

1 金沢からスタート

子どものことを話させてもらうのがうれしい。金沢市の寺町で不登校の会「おーぷんはうす」ができた。それから名古屋の方に移り弁護士をしている。月1回金沢に来て、お互いに支え合って30周年を迎えた。継続は力だ。

2 子どもの視点とは

虐待、非行を考えると、子どもの視点が大切である。子どもの人

3 子どもの支援とは

子どもの非行の背景は虐待。親自身自己肯定感が低い。子どもと大人のパートナーシップが必要。共に生き、共に育つ。子どもの権利条約6条に「すべての子どもが生きる固有の権利と発達を最大限に保障される」とある。子どものパートナーとしての弁護士の役割は①子どもを支える②子どものことは子どもから学ぶ。③かわるプロセスを大切にしたい。(楽しみたい)みんな違ってみんないい。

4 少年弁護のケースから

NPO法人子ども支援センターバオ入所の14歳の女子の場合。父がいなくて、母が急死し、親戚に預けられる。そこで虐待され、家出。彼女の回復のイメージを図にして送ったところ、「読んだよ、泣けたよ」と返事が返ってきた。

ある弁護をした少年が、20歳になり、その年の年賀状に「僕も子どもを守る大人になるよ」と書いてあった。大切にしている。

5 講演を聞いて

多田さんの優しさあふれる話を聞き、電話相談でもかけてくる方

した。

これまで電話相談の機能には、「危機介入」「問題解決」「情報提供」に加え「情緒的支援」が必要になってきていることを共有してきた。

話し合いの中で、どのグループからも「情緒的支援」を意識して掛け手に寄り添い、かわわっているという意見が聞けた。ほっこりした温かい気持ちになった。

その後、43期の入会を祝う懇親会を開催。養成部員手作りの「さるぼほの置物」サルが9匹で、苦

難が去る。

が手渡された。テーブルの上には、会員手作りのアレンジのお花、お茶やお菓子の準備がされ、心温まる会となった。

さあ!気持ちを新たに電話ブースに向かおう。(記 M・J)



手作りのさるぼほ

楽しかった セラピーコンサート



聴衆を魅了した角谷氏の歌ごえ

にもっと心を寄せていこうと思っ
た。(記 K・A)

第3回ふれあいの集いが3月3日(日)松ヶ枝福祉館で開催された。

今回初めてミュージック・セラピストの角谷先生(音楽療法研究会)による「ふれあいの集いセラピーコンサート」が行われた。生演奏で『ふるさと』『ハナミズキ』『糸』を先生の指導で楽しく皆さんと歌い、会場全体が温かな空気に包まれ幸せな気持ちになった。

各部会紹介のポスターも力作ばかりで、会員の皆さんの想いが表れていた。

作品展示コーナーでは、ひな祭り

の日にちなみ、折り紙や手作りのひな人形など季節感に満ちていた。

喫茶のぜんざい・コーヒール・お抹茶はどれも美味しく、お腹の中も幸せで一杯になった。

実行委員の皆さんの企画から準備とご苦勞を感じ、感謝で一杯になった。来年も賛助会員の皆様を含め多数の参加を願ってやみません。(記 H・Y)



平成30年度 賛助会費・寄付金 感謝報告

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

金沢こころの電話の運営のために温かい資金援助をいただきました。心から感謝しご報告いたします。
これからもご協力下さいますようお願い申し上げます。(敬称は略させていただきます)



【賛助会費】

○個人

池野裕子、石川誠子、石田 修、泉 信次、伊藤美津子、今井宏和、上田佳壽子、浦田早知・ 肇、岩崎 綾
遠藤陽子、大浜美映子、小川弘子、奥田栄美子、小野ツルコ、柿崎亜紗奈、柿崎謙一、角谷澄栄、金江正衣
河合隆平、川浦幸光、木越トヨ子、北村武子、北本成子、鞆谷倫子、越島伸子、小林 匡、紺谷博子、賤前貴代美
齊藤千代、齊藤八重、坂本恭子、櫻井直子、佐宗 功、佐藤順子、真田京子、柴野南津、清水文子、下田葉子
助佐直子、関 雅美、関 玲子、高木要子、高倉万美、高澤タマエ、高沢美和子、高地松美、高山静子、竹勢津子
武田陽子、田島晴美、田中千鶴、土家佳奈子、釣見民子、出口房子、寺井亮三、問谷元子、徳沢愛子、得永嘉昭
富田 寛、虎谷順子、直江茂行、中島章雄、中野喜代子、中村 哲、中村孚子、中村了吉、永藁英子、新田由美子
野口 強、能登準一、狭間千代子、橋本忠明、浜田典子、針田典泰、東野昭子、平野裕紀子、広瀬照代、福岡晴美
福島 純、藤谷明子、前 郁美、松見博史、松本れい子、水田美代子、宮崎洋子、宮前美智子、宮村 泉
宮元紀和、宮本道子、宮森恵子、村本高志、室山昭子、元田保栄、守部厚子、八木孝男、八木雅夫、山口正雄
山野俊一、山野祐子、山村英子、吉川玲子、米田千映子、涌波理絵、山本達彦、山本 唯

○法人・団体

(医)荒木耳鼻咽喉科クリニック、石川県織物構造改善工業組合、石川県織物工業協同組合、(社)石川県看護協会
(一社)石川県経営者協会、石川県商工会連合会、(公財)石川県成人病予防センター、(一社)石川県鉄工機電協会
加賀建設(株)、加賀こころの病院、加藤クリニック 加藤佐敏、仁智会 金沢春日ケアセンター
金沢原糸織物商業協同組合、金沢商工会議所、(株)久世ペローズ工業所、(株)シーピーユー、(株)大日製作所
(株)東山商会、カット&エステ髪綺里、願念寺、(株)小林太一印刷所、紺谷内科婦人科クリニック、J A石川県連
商工組合中央金庫 金沢支店、白銀教会、白銀幼稚園、鈴木レディスホスピタル 新田直樹、第一電機工業(株)
東福カウンセリングセンター、(株)中島商店、中谷商事(株)、(財)日本電信電話ユーザ協会 石川支部、梅光保育園
(株)橋本清文堂、馬場幼稚園、(株)福光屋、ホクショー(株)、北陸学院高等学校、司法書士 山本 勝、妙國寺
(有)ナカテック、(有)由水十久工房、カ丸医院、わせだクリニック、和田歯科医院

【寄付金】

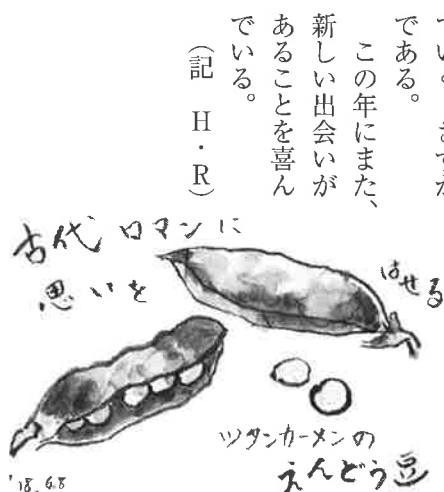
奥田フミヲ、土田陽子、山内ミハル、野坂 仁、中村純子
佐宗節子、八尾克己、山本静子、下里二三枝、藤田健一
匿名の方

※賛助会費の振込は下記口座へお願い致します。

▶郵便振替口座 00710-4-13987
「金沢こころの電話」

賛助会費・ご寄付等 合計 1,125,272円

発行 公益社団法人
金沢こころの電話
事務局 〒920-0964
金沢市本多町3-1-10
電話 (076)222-7531
FAX (076)222-5352
http://kkd-ishikawa.jp/soudan
e-mail kkd@beach.ocn.ne.jp
編集 広報部会
印刷 (株)橋本清文堂



編集後記

平成から令和へ元号が変わった記念す
べき5月、私は広報部会へ軽い気持ちで
入部してしまった。
「してしまった」と言うのは、入部し
て知ったのだが、少数精鋭だったからで
ある。

原稿の手配、校正等意見が飛び交う。
途中、雑談に脱線しながら着々と編集し
ていく。さすが
である。

この年にまた、
新しい出会いが
あることを喜ん
でいる。

(記 H・R)